

②⑤ミズベリング信濃川やすらぎ堤

受賞機関 国土交通省 北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所・新潟市
ミズベリングやすらぎ堤研究会

全建賞審査委員会の評価ポイント

新潟市の中心市街地で、信濃川の治水安全度を向上させるために整備され「やすらぎ堤」を活用したミズベリングの取組み。平成28年のミズベリング関連で最も話題を集めたうえに、新潟市長自らが広告塔になって全国に向けてPRした点も他の模範である点や、利用者数が3倍に増えたことを評価。

1. はじめに

「やすらぎ堤」は政令指定都市“新潟”の中心市街地を流れる信濃川の治水を目的に整備された緩傾斜堤防であると同時に、豊かな水辺空間として多くの市民から利用されてきた。そして平成26年からはこの「やすらぎ堤」を活用してさらなる賑わいを生み出そうと、市民を中心とした多様なメンバーが結束し「ミズベリング信濃川やすらぎ堤」プロジェクトに取り組んでいる。平成28年2月には、万代橋と八千代橋の区間が北陸の直轄管理河川で初の「都市・地域再生等利用区域」に指定され、同年7～9月に民間事業者による「オープンカフェ」や「BBQ」等を提供する飲食店が出店し、約3万人の方々に利用されるなど大きな成果を上げた。



ミズベリング信濃川やすらぎ堤の状況
(写真提供：新潟市)

2. 事業の概要・実施体制

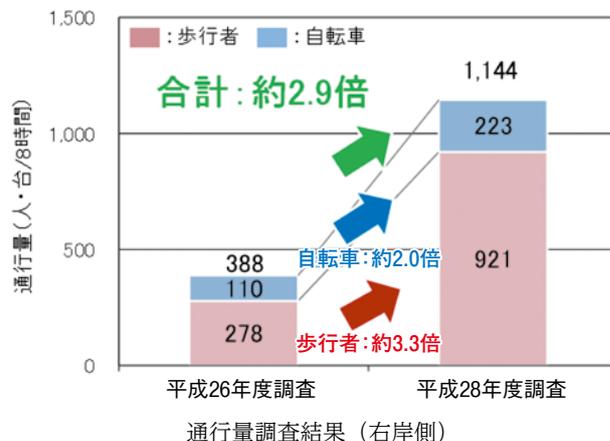
全国的な「ミズベリングプロジェクト」の動きに呼応する形で市民有志・官・有識者による、「ミズベリング信濃川やすらぎ堤会議」を継続的に開催し、全国の先進事例・目指す方向性・利活用方法などについて意見交換を行ってきた。それを受けて具体的な活動を実施するための民間組織「ミズベリングやすらぎ堤研究会」を発足させ、エリアマネジメントや店舗営業の方向性などの検討・調整を進め、平成28年度は試行期間として、同研究会

と新潟市がエリアマネジメントを行った。また、広く地域の合意を得るために、官・民・有識者で構成される第三者機関の「信濃川やすらぎ堤利用調整会議」を立ち上げて利用・管理運営に関するルール等について意見聴取を行った。

さらに「かわまちづくり」全国会議において、新潟市長自らが先進事例として発表するなど積極的にPRを行った。

3. 事業の成果

公募による出店者は11者で、平成28年7～9月の3ヵ月間に約3万人の利用があり約7,400万円の売り上げとなった。また会場付近の歩行者・自転車通行量は約2.9倍となるなど、水辺の賑わいを生み出すことに貢献することができた。市民からも「美しい景色を見ながらのんびりと過ごせる」といった意見が多く好評を得ることができた。全国各地から視察者が訪れるなど、全国的にも注目される取組みとなっている。



4. おわりに

平成28年度の取組みは前述の通り好評であったが、一方では「テントなどの統一感がない」「水辺の景観が損なわれる」といった課題も明らかとなった。平成29年度は課題解決の一つの方策として、新潟市と新潟県三条市に本社を置く世界的アウトドアメーカー「スノーピーク」が施設使用契約をし、区域全体の統一感をもった管理・運営を行う予定としている。この場所は万代シティ・古町の間であり港との境界にあることから、今後はエリア内から隣接する地区の活性化に繋がる事が期待されている。